

福井県大野市南六呂師のルリイトンボ

長田 勝*・松村 俊幸**

The record of *Enallagma boreale circulatum* Selys (Coenagrionidae : Odonata)
in Minamirokuroshi, Oono-shi, Fukui Prefecture

Masaru OSADA*・Toshiyuki MATSUMURA**

ルリイトンボ *Enallagma boreale circulatum* Selys の国内における分布は、北海道と岐阜・福井の県境地域以北の本州で（杉村ほか，1999），福井・岐阜県境付近が分布南西限となっている．福井県昆虫目録第2版（福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編，1998）では，県内の生息地は大野市打波川上流部の刈込池と下小池の2箇所が記録されている．

筆者のひとり松村は，2001年6月末に大野市南六呂師の道路脇にある小さな池（自然保護センターへ向かう道路がS字状に屈曲する手前の左側）で複数の本種を見出した．その後，長田も2003年6月末に同所で本種を採集したので，この小池では発生が継続していると判断された．イトトンボ科のトンボは他にエゾイトトンボとクロイトトンボを確認した．この生息地は3つの小池が隣り合っているが（図1），このうち水草が比較的多い道路寄りの池（図2）で発生しているものと思われる．3つの小池は，かつてすべて水田だったものを，順次ため池として利用し始めたものである．特に，最も道路寄りの池と道路から最も遠い池は，1990年の段階ですでに完全にため池化していた．真ん中の池は，10年ほど前から水田のまま水を張っていたが，2000～2001年には，効率よく湛水されるように，最も道路寄りの池と真ん中の池の境界部分を改修し，本格的にため池として利用し始めた．また，最も道路寄りの池と道路から最も遠い池は，1990年にはすでにコイが放流されていたが，調査した2001年の時点ではコイは確認されなかった．持ち主によると，コイがいなくなってから，もう10年程度経過しているとのことである．南六呂師は従来知られているルリイトンボの生息地から南西へ約13～14km離れている．今後，山間に点在する小規模な池を精査することにより新たな生息地の発見が期待される．

以下に南六呂師におけるルリイトンボの採集記録を報告しておく．

福井県大野市南六呂師（MC:5436-0416），標高505m，21，29．．2001 松村俊幸採集（福井県自然保護センター保管．登録番号4511～4513）； 同，3，30．．2003 長田 勝採集（福井市自然史博物館保管）

引用文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1998．福井県昆虫目録（第2版）．福井県．
杉村光俊ほか．1999．原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑．北海道大学図書刊行会．



図1 生息地の全景（右側が道路寄り）



図2 水草が豊富な道路寄りの小池



図3 南六呂師産ルリイトンボ（2003年6月30日採集）

*福井市自然史博物館（〒918-8006 福井市足羽上町147）

**福井県海浜自然センター（〒919-1464 三方郡三方町世久見18-2）